

府立とりかい高等支援学校



テーマ:資質・能力の3つの柱である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育てる授業づくり～チーム・ティーチングのメリットを活かして～

概要

令和3年度、自校の掲げる「企業就労を通じて自立と社会参加を促進し、社会に貢献できる人材を育成する学校」とする目標を踏まえ、令和2年度より課題の一つであった「チーム・ティーチング」を含むテーマを設定しました。資質・能力を育むための3つの柱である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の観点からの授業づくりにおけるチーム・ティーチングの在り方について、授業担当者(以下、プランナー)とサブ教員(以下、ST)の両側面から、学習集団の生徒一人ひとりの実態把握を基に、令和2年度に引き続き指導及び支援内容の工夫をするとともに、令和3年度はSTの役割やその活用等について、全体会や校内研修での教科会等で確認し、学習指導案の作成や授業実践を通して理解を深めながら、研究協議として報告やワーク等を通して全体共有を図りました。

実施

スケジュール

Research

6月 8日(火) 打合せ

Vision

7月 21日(水) 全体会

Plan

9月～ 学習指導案の作成・検討

Do

10月 20日(水) 事前授業・授業後の協議

12月 1日(水) 研究授業・研究協議

Check & Act

1月下旬 アンケート集約

全体会

7月 21日(水) 「授業づくりのテーマ」について

支援教育推進室指導主事より

学習指導要領各教科編にある各教科の目標及び内容を踏まえ、学習指導案として高等部「美術科」の目標及び内容を単元として計画するするとともに、副題である「チーム・ティーチング(T・T)のメリットを活かして」について、校内研修を担当する地域支援部を中心としてワークを行い、所属する先生方自身の経験から「どんなSTがいてほしいのか」「そのために工夫していることは何か」等、プランナーとSTの両側面から考えていただきました。意見を共有した後、他校の研究事例等を紹介させていただきながら、学校としてテーマに取り組んでいただきたいことを伝え、全体会での研修内容としました。

②授業づくりのテーマ

▶今年度のテーマ

資質・能力の3つの柱である
「知識・技能」
「思考力・判断力・表現力」
「学びに向かう力、人間性」を育てる授業づくり

～チームティーチングのメリットを活かして～

③考えてみよう!

- ▶ 1 自分がプランナーだったら、サブの方からどんなアシストが欲しいですか?
- ▶ 2 自分がプランナーとして、サブの方に対してどんな工夫をしていますか?

自分の考えを用紙に記入してください。



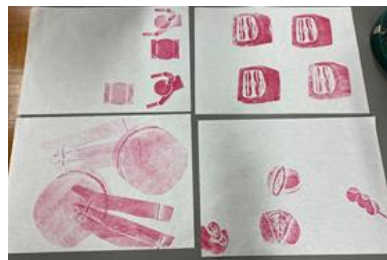
研究授業

学年・教科： 高等部 2 年 「美術」

単 元 名： 紙版画「和」をテーマに多版多色版画によるイメージ表現

生徒の実態から育むべき3つの資質・能力を柱とした「美術科」の単元目標と評価規準、研究テーマであるT・Tの役割等が示された学習指導案を作成し、授業を実施しました。

個人学習として「さまざまな表現技法を学び、イメージ表現を行う」ことだけでなく、研究協議のポイント「共同制作」の活動である「和」というテーマから友達と協働して感じたことや考えたことから主題を生み出すことや、自他の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫等について考えることができる対話的な学びの場を設定する等、活動の工夫を行われていました。評価の観点である「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」についても、美術科の評価規準となるよう評価方法と分けて構成されていました。



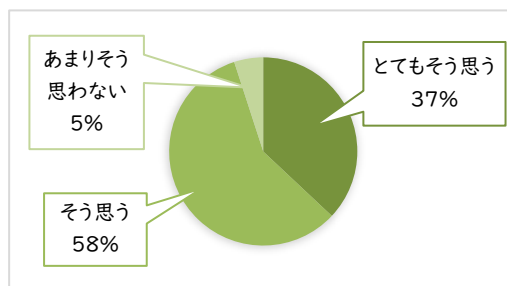
成果

研究協議より チーム・ティーチング(T・T)の連携や動きの工夫

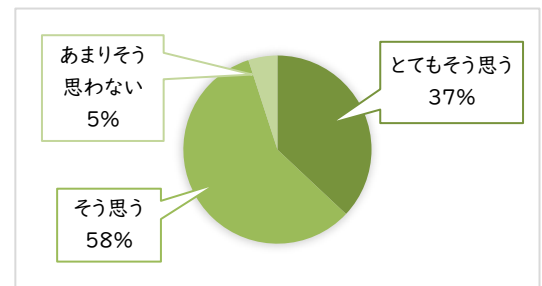
授業担当者から、研究授業における「チーム・ティーチングの工夫」について、映像を用いて具体的な指導・支援場面を提示しながら、プランナーとSTの役割や動き等についての説明、感想を發表いただきました。さらに、STの視点から、「何を意識して動くようにしていたのか」について發表いただきました。STとしての事前に計画された役割や動きだけではなく、生徒の学習状況を判断して動くことの大切さについて気付くことのできる發表内容となっていました。その後の個人ワーク、グループワークを通して、自校の教育目標からイメージする生徒の「自立」につながる指導・支援のあり方、指導方針についても、プランナーとST間で共有され、統一した授業づくりが高等支援学校として大切であること、「チーム・ティーチングのメリット」が誰にとってもメリットであるのか、について再確認できる研究協議とすることができました。

アンケート結果

① 学校のニーズにんでいた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想やご意見より)

- ・「T・Tに必要な視点」や「プランナーとSTによる事前の打ち合わせの必要性」を再確認できた。
- ・本校以外での支援学校の経験がない先生には、是非参加してほしい。
- ・新学習指導要領における資質・能力を育むためのSTの動きの提示が、本校に求められていると思う。まずは授業の時にプランナーの意図を理解した指導・支援をすること、机間指導を大切にすること等、当たり前のことを周知してもよいと思う。
- ・授業づくりを考え直す機会になりました。今後にかかしていきたいです。
- ・指導主事の先生のアドバイスを受けるための時間の確保ができれば、さらによかったと思います。
- ・今年度の成果を全教員に活かしていくように継続的に地域支援部全体で取り組んでほしい。
- ・昨年度の研修を受けて、その後に役立てたのか、教員の振り返りもあってもよかった。